

木村花作品展「母なる大地」

女性が大学に通えること、選挙に行けること、
仕事を選べること、離婚できること—

これらは全て過去の、あるいは歴史には残らなかった「女性たち」の奮闘によって得た権利で、
私たちはその上に立っています。

ユダヤ系女性として、初のアメリカ最高裁判事になったルース・ベイダー・ギンズバーグは、
「私たちを踏んでいる足をどけてほしい」と
声を挙げつづけました。

その姿を受け、女性の象徴である乳房を踏みながら鑑賞する作品を構想しました。

「過去の歴史や踏まれても跳ね返す力を持っていることを忘れずにいたい。」

そうした思いが、「母なる大地」に込められています。

ルース・ベイダー・ギンズバーグ(1933-2020)

性別や人種の平等を訴え、人生を通じて声を上げ続けることで社会を変えたアメリカ最高裁判。法服にえりかざりがトレードマークで「RBG」の愛称で親しまれた。

参考文献 デビー・リヴィイ(2022)『わたしは反対! 社会をかえたアメリカ最高裁判事ルース・ベイダー・ギンズバーグ』子どもの未来社。

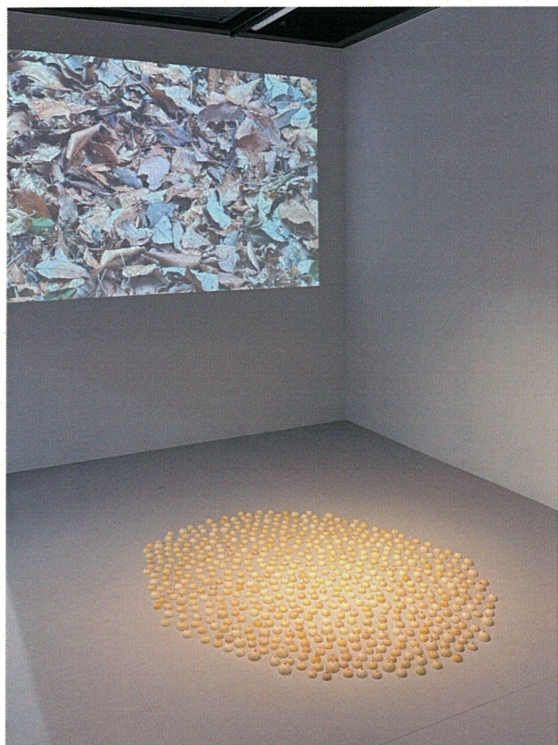
2025

10.7 Tue

—10.9 Thu

9:00~17:00

同志社女子大学
京田辺キャンパスLCギャラリー



この度、同志社女子大学4回生 木村花による作品展「母なる大地」を開催致します。本作は、女性の身体やジェンダーをテーマとし造形物による展示を行う空間構成です。

2度目となる今回の作品発表では、若年層の心と身体の健康を目指し、性教育の専門家による講義やワークショップ開講を継続するSRHR Japanと共同し、作品関連ワークショップを開講します。

性や女性の身体について、参加者と対話しながら作品をつくる体験を通じ、自身の身体について考え、大切にすることを楽しみながら学ぶ場をつくります。

参加者 募集



お申込み👉

作品関連ワークショップ 「理想のおっぱいをつくろう」

「母なる大地」の作品モチーフである乳房をねんどを使って制作するワークショップを開催します。普段、なかなか考える機会のない理想のおっぱいをつくってみませんか？

造形物の制作が初めての方にも簡単にねんど製作から色付けまでを体験いただくことができます。是非ご参加ください。

[期日] 10月8日(水)15:00～16:30(約90分)

入場無料、受付14:45～

[お申込み]お手数ですが、QRコードから必要事項をご記入の上、前日までにお申込みください。

[お問い合わせ]info@kyoto-scope.com

※展覧会へのご入場およびワークショップへのご参加は、同志社女子大学学生および関係者に限ります。学外からのご見学希望については、主催者までお問い合わせください。

[出展作家]木村花

[ワークショップコーディネート]中野慶子(一般社団法人SRHR Japan)、緒方江美(アートマネージャー、大阪芸術大学 特任准教授)

[主催]一般社団法人SRHR Japan